



This is Anfield

目次

クラブの歴史

監督紹介

選手紹介



1960年代半ばから80年代にかけて、3連覇（1981-82、1982-83、1983-84シーズン）達成を含むフットボールリーグ優勝13回、UEFAチャンピオンズカップ（現在のUEFAチャンピオンズリーグ）優勝6回など、40以上のタイトルを獲得した。イングランドのみならず世界を代表する強豪クラブの一つであるが、一方でヘイゼルの悲劇、ヒルズボロの悲劇という2つの大きな事件を引き起こした（後述）。

2005年にイスタンブールの奇跡と呼ばれる勝利でACミランを下し、UEFAチャンピオンズリーグ（旧UEFAチャンピオンズカップを含む）制覇を果たす。これによりイングランドで唯一ビッグ・イヤーの永久保持が認められた。

2012年に創設120周年を迎えた。クラブ史上、監督を務めたのは18人[1]。現在の監督は2015年10月に就任したユルゲン・クロップである[1]。

旧フットボールリーグにおいて最多となる18回の優勝を誇る[2]。イングランドのトップリーグにおける最多優勝回数記録を長年にわたり保持していたが、2010-11シーズンのリーグを制したマンチェスター・ユナイテッドに抜かれ、現在はそれに次ぐ優勝回数となっている[2]。国内タイトルでは唯一プレミアリーグ優勝の経験がなかったが、2019-20シーズンにプレミアリーグとして初の優勝を成し遂げた。

2014年1月、世界最大の会計事務所である『デロイト』が公表したデロイト・フットボール・マネー・リーグによると、2012-13シーズンのクラブ収入は2億4060万ユーロであり、世界のサッカークラブの中で第12位である[3]。

世界中のサッカークラブのサポーター達に歌われ、人気を得ているサポーターソング「You'll never walk alone」を最初に合唱したクラブでもある。

リヴァプール FC（英語：Liverpool Football Club）

イングランド・リヴァプールをホームタウンとする、イングランド・プレミアリーグに加盟するプロサッカークラブ。愛称はレッズ（The Reds）。



名将 スティーブン・ジェラード



スティーヴン・ジョージ・ジェラード

Steven George Gerrard

スティーブン・ジェラードは、元イングランドのサッカー選手であり、リヴァプールFCの一生涯を通じて忠実にプレーしました。彼はクラブの下部組織出身で、1998年にトップチームデビューを果たしました。

ジェラードは中盤の選手として非常に優れた技術と戦術理解を持ち、そのキャリアを通じてリヴァプールを象徴する存在となりました。特にキャプテンとしての役割では、リーダーシップと情熱を示し、チームメイトとサポーターの信頼を勝ち取りました。

彼のキャリアのハイライトには、2005年

のUEFAチャンピオンズリーグ決勝での活躍があります。ジェラードはACミランとの対戦で劇的な逆転劇を演出し、リヴァプールにとって5度目の優勝をもたらしました。この試合では彼のゴールもあり、その勇敢で情熱的なプレースタイルがファンの心を掴みました。

ジェラードはリヴァプールの象徴としてだけでなく、イングランド代表としても活躍しました。彼のサッカーへの情熱とプロの姿勢は、多くのサッカーファンに感銘を与え、彼を現代のサッカーのレジェンドの一人と位置づける要因となっています。

イスタンブールの奇跡

決勝戦は、共に赤がチームカラーのイングランドのリヴァプールとイタリアのミラン、そして開催国トルコの国のカラーも赤と、まさに赤一色に包まれたイスタンブールのアタテュルク・オリンピヤト・スタドゥで行われた。

リヴァプールはこのシーズンのリーグ戦は低迷しており、長年チャンピオンズリーグでも結果を出せていなかった。このシーズンもグループステージから苦戦し最終節のホーム、オリンピコス戦ロスタイムでのジェラードの劇的なミドルシュートで突破を決め、その後ユヴェントス、チェルシーらの強豪を接戦で倒し苦しみながらも勝ち抜けてきた。対するミランは、マンチェスター・ユナイテッドやインテルを相手に安定した勝ち方で勝ち上がってきており、スクデットこそ逃していたがこの日のために主力を温存し、2002-2003シーズンのチャンピオンズリーグを制した勢いを保っており、前評判はミラン有利と見られていた。

この試合はリヴァプールサポーターからは、「イスタンブールの奇跡」と言われており、ACミランサポーターからは、「イスタンブールの悲劇」と言われ、UEFAチャンピオンズリーグにおいて、歴史的試合の一つである。



名将

Jürgen Norbert Klopp
ユルゲンクロップ

タイトル

ボルシア・ドルトムント

ブンデスリーガ: 2010-11, 2011-12

DFB ポカール: 2011-12

DFL スーパーカップ: 2013, 2014

リヴァプール FC

プレミアリーグ: 2019-20

FA カップ: 2021-22

EFL カップ: 2021-22

FA コミュニティ・シールド: 2022

UEFA チャンピオンズリーグ: 2018-19

UEFA スーパーカップ: 2019

FIFA クラブワールドカップ: 2019

2001-2008	1.FSV マインツ 05
2008-2015	ボルシア・ドルトムント
2015-	リヴァプール FC





モハメド・サラ
Mohamed Salah

THE KING

クラブチームやエジプト代表での活躍から母国エジプトでは絶大な人気を誇り、2018年エジプト大統領選挙では、当選した現職のアブドゥルファッターフ・アッ＝シーシー（92%得票）に次ぎ2位となる全体の約5%の票（約100万票）が立候補すらしていないサラへ投じられた。先述のとおり2017年12月10日のマージーサイド・ダービーで決めたゴールで2018年度のプスカシュ賞を受賞したが、このゴールはリヴァプール公式サイトで選出したサラのベストゴールランキングで2位であり、またプレミアリーグの

月間ベストゴール、年間ベストゴール、ガーディアン紙選出のベストゴールにも選ばれていないなどサラ自身の他のゴールと比較しても評価は高くなく、受賞には疑問が寄せられた。2023年12月9日、16節のクリスタルパレスとの対戦でチームでの200ゴール兼プレミアリーグ通算150ゴール目となる得点を決めた。



フィルジル・ファン・ダイク
Virgil van Dijk

世界最高のセンターバック

海外サッカー通として知られる元プロサッカー選手の林陵平はファン・ダイクの対人守備の強さについてポジショニングの的確さといった基本的な事項に加え、UEFAネーションズリーグ・フランス戦でのキリアン・エムバペへの対応や、トッテナム戦でのムサ・シソコとソン・フンミンへの1対2での対応を例に挙げ、瞬時の判断で相手の選択肢を限定し誘導する能動的な守備が特長であると評価した。

ダイクの名を挙げ、「世界最高の一人」と称賛した。リオ・ファーディナンドも、リヴァプールの最終ラインの不安を解消したファン・ダイク加入の影響力を指摘し「プレミアリーグ史上最高のDF」であると賛辞を送った。OB選手からの評価では、ジェイミー・レドナップはファン・ダイクを、ジョン・テリーの試合を読む能力、リオ・ファーディナンドのスピードと技術、ロングフィード、ネマニャ・ヴィディッチの精神力、空中戦の強さ、リーダーシップを兼ね備えており、プレミアリーグ史上最高のDFになりうると評価した。



アリソン・ベッカー
Alisson Ramses Becker

世界最高の守護神

アリソンは2018年にGK史上最高額(当時)となる6700万ポンド(約98億5700万円)の移籍金で、ASローマからリヴァプールへ加入。安定感抜群のセービングと精度の高いキックを武器に守護神へ定着し、カタール・ワールドカップ(W杯)に臨むブラジル代表メンバーにも選出されている。

そんなアリソンと言えば、口周りともみあげに髭を生やした風貌でお馴染みだったなかそのルックスが一変。カタールW杯前、最後

のリーグ戦となったホームでのサウサンプトン戦では、自慢の髭が剃り落とされた姿で登場し、見た目の印象が大きく変貌した。

この姿が話題を呼び、英紙「ザ・サン」は「アリソン・ベッカーがサウサンプトン戦で髭を剃り落とし、ファンに衝撃を与えた」と見出しを打ち注目。記事ではSNS上に寄せられたファンの反応も紹介され、「新しいGKと契約したのかと思った」「これがアリソンなわけがない」「髭のないアリソンなんておかしい」との声が寄せられたという。



トレント・アレクサンダー＝アーノルド
Trent Alexander-Arnold

リヴァプールの黄金の右足

幅広いパス、精度の高いクロス、爆発的なスピードで知られる彼は、世界最高のサイドバックの1人と見なされている。

アーノルドはサイドから攻撃の起点となり、チームメイトにゴールチャンスを生み出す能力に優れているため、世界でも指折りの攻撃的サイドバックとして広く考えられている。キャリアの初期は、アーリークロスやセットプレー、積極的な攻撃参加からゴールをアシストする役割により、プレミアリーグで瞬く間に頭角を現した。彼はリヴァプールのユー

スアカデミーではミッドフィールダーとしてプレーしており、彼の正確無比な長短のパスや攻撃参加を好むプレースタイルからもアカデミー時代の影響が色濃く現れている[要出典]。2017-18シーズン以降、リヴァプールの右サイドバックのポジションのファーストチョイスを守り続けている。2022-23シーズンプレミアリーグ第31節リーズ戦では所謂偽SBとして、主に中盤でプレー。アシストを記録するなど、非常に印象的なプレーを見せて適正を予感させていた。



遠藤 航
endo wataru

日本代表主将

【2023-24】強豪リヴァプール加入を果たした遠藤航
日本代表MF 遠藤航は、今夏シュトゥットガルト（ドイツ）からリヴァプール（イングランド）へ移籍した。
遠藤は2018年夏に浦和からシント＝トロイデンVVに移籍。翌年からシュトゥットガルトでプレーし、2021-22シーズンからはクラブのキャプテンを務めていた。昨シーズンは公式戦40試合に出場して6ゴール5アシストを記録。日本代表キャプテンがついにプレ

ミアリーグの舞台に立つ。リヴァプールのユルゲン・クロップ監督は、移籍後初ゴールを決めた遠藤航に賛辞を送った。
26日に行われたヨーロッパリーグ(EL)グループステージ第3節で、トゥールーズと対戦したリヴァプール。ジョタのゴールで早々に先制したが、16分に追いつかれる展開に。それでも30分、アレクサンダー＝アーノルドのクロスを遠藤が頭で決めて勝ち越しに成功。その後はゴールラッシュを見せ、5-1で快勝を飾っている。



ドミニク・ソボスライ
Dominik Szoboszlai

ジェラードの8番を継ぐ男

2022-23シーズン、リヴァプールは早々に優勝争いから脱落すると、最終盤に11試合負けなしと盛り返し5位まで浮上したものの、7シーズンぶりにチャンピオンズリーグ（CL）出場権を逃すことになった。リヴァプールは新シーズン、2015年からチームを率いるユルゲン・クロップ監督のもと、4年ぶりのリーグ制覇を目指して巻き返しを図ることとなる。そんな彼らの命運を握りそうなのが、

110億円）で加入が決まったハンガリー代表MF ソボスライだ。
新天地のリヴァプールではクラブの英雄である元イングランド代表MF スティーヴン・ジェラード氏が身に付けていた背番号「8」を託されるわけだが、その背番号に恥じないプレーも見せてくれそう。というのも、ソボスライはジェラードに負けないほどの“キャノン砲”を持ち合わせている。そして優秀なセットプレーのキッカーであり、類稀なシュートレンジを持つ選手なのだ。



You'll Never Walk Alone

発行者 : 郡司健 2023/12/21

写真はすべて引用：Liverpool FC